

長岡造形大学 理事長・学長の略歴

◆ 豊口 協（とよぐち きょう）

1933年東京都生まれ（80歳）。千葉大学卒業後、松下電器産業株式会社、株式会社豊口デザイン研究所を経て、1984年から1992年まで東京造形大学学長を就任。1994年に長岡造形大学学長に就任し、1999年より学校法人の理事長を兼任ののち2004年から理事長に専任。

専門分野はインダストリアルデザイン。グッドデザイン賞審議委員会委員長など官民学に渡って委員会委員など役職多数。著書に「IDの世界」「Gマーク・グッドデザインのすべて」などがある。さらに、2009年4月に「文部科学省旭日中授章」を受章した。

◆ 和田 裕（わだ ひろむ）

1951年岐阜県生まれ（63歳）。東海大学卒業後、いすゞ自動車㈱で21年間デザイン業務に携わる。1994年に長岡造形大学助教授、1998年に教授の就任を経て、2012年より学長に就任。

専門はトランスポーターションデザイン。主に関わった車両は、エルフ、ロデオ、ビックホーン、ウィザード、ミュー、ディアフォルテ（ゲレンデ整備車）、10式雪上車

地域協創センター (平成26年4月設立)

地域と協働し、地域を創る

「教育研究」と「地域貢献」の2つの視点から、地域社会や企業などと協働し、地域課題の解決や新たな地域価値の創造を目指す。

教育研究における取り組み

◆ **地域社会こそ実践的な学びの場である。**

地域社会をデザインの実践的な学びの場とし、企業や自治体、コミュニティ、NPO等と協働した課題解決への取り組みを通じて、「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を育むアクティブラーニング（能動的学修）とする。

① 実際の地域課題を題材とした専門演習・実習科目

地域社会における現実のデザイン課題を題材にして、企業、NPO、行政等と協働しながら各学科の専門教育科目の演習・実習を行う。

② 地域協創演習

「問題の発見、原因の認識、解決への構想、試行・検証、具現化」というデザインプロセスを総合的に学び、課題の具現化や製品の創出等を目指す学部共通の演習科目を行う。

③ インターンシップ実習

「学ぶ」と「働く」をつなぐため、企業やNPO、自治体等で就業体験を行う。

地域貢献における取り組み

◆ **デザインの特性と成果を地域社会に活かす。**

人々の生活から都市空間、産業分野にわたる広い領域に係わるデザインの特性とその研究成果を活かし、地域の産業やまちづくりの振興を図るとともに、こどもから大人までの生涯学習や創作活動の機会の充実に寄与する。

1 産業振興と地域づくり

① デザイン研究開発事業（デザイン開発研究所）

教員や学生の研究成果と人的資源を活かし、企業や自治体等とのデザイン研究開発プロジェクトを通して地域社会と産業の振興に寄与する。

② 造形知的財産管理システム

教員、学生等の作品に係る知的財産の管理・公開システムを構築し、企業等による製品化や産学連携による新たな製品の創出を図る。

2 生涯学習・文化活動の支援

「こどもものづくり大学校」、「児童・生徒デザイン教室」、「市民工房」、「まちなかキャンパス事業」などにより、生涯学習や文化活動を支援する。

3 施設の開放

図書館、展示館、ギャラリー、NIDホール、講義室、グラウンドなど、キャンパスまるごと市民に開放する。